

2.44mM/L となり以後わずかに上昇する傾向が見られたが有意ではない。帝切群では変化の少ない傾向にあると思われる。

焦性ブドウ酸値は母体静脈血 0.229mM/L, 臍帯動脈血 0.382mM/L, 臍帯静脈血 0.332 mM/L, 出生後は1及び2時間に各々 0.183, 0.169mM/L と低値をとる傾向がみられた。

過剰乳酸については我々は Hackabee の方法により同一血管即ち臍帯静脈血より算定を試みたが正常経腔群中にも出生後15分に高値を示したものがある。

以上我々は分娩現象が胎児及び新生児に与える影響を糖代謝の面より正常経腔分娩及び選択的帝切例について検討しこれらの変動は2時間を転機として平定化する傾向にあると考える。

質問 (九州大) 木村 制裁

乳酸・焦性ブドウ酸定量時に同時にpHの測定をしたか。

答弁 (東京日立) 榊 玄彦

pH, 有機酸, Apgar を平行して測定している。

追加 (東京大) 藤井 仁

われわれは臍帯血のpH, Lactate 値, Pyruvate 値, ならびに Apgar score, 羊水 こんだくなどの関係について検討している。簡単に成績をのべると, 臍動脈血 (UA) pH値を0.05毎に区分し検討したところ, pH7.25以上の例では U.A. lactate (UAL) 37.9mg%, U.A. pyruvate (UAP) 0.9mg% であり, pH 7.150~7.100群の値は 4.5, 1.3と漸増の傾向があり, pH 7.100以下になるとそれぞれ77.5, 1.6と有意の差をもつて増加している。pHの低下につれて Apgar score の異常値, 羊水 こんだくの出現頻度の増加などの臨床的所見の異常も多発した。

82. 新生児期血液成分の変動, 特に臍帯動脈血間の性状差について

(済生会新潟総合) ○笹川 重男, 阿部 進
成熟新生児血液諸成分を, 臍帯動脈 (A), 臍帯静脈 (V) からそれぞれ採血し, また生後1, 3, 6日目に検査して報告した。好塩基球数は稲垣の直接算定法により, 淋巴球のPAS陽性率は Hayhoe の変法を用いた。

赤血球数は A.V. および生後推計学的に優位な変動はない。血色素量も15 g/dl前後で生後も大きな差はなかった。ヘマトクリット値は48%前後であつた。MCHは30~40で高色素性, MCVは 100~150 μ^3 と大赤血球性で, MCHCはほぼ成人のそれと似て居た。網赤血球は

AV共に3%前後で6日目にやや減少した。白血球数は AV共 10000/mm³ 前後で差なく3日目で既に優位に減少した。分類ではAVで淋巴球が比較的多い。好塩基球数は, Aで41.1/mm³ Vで39.5/mm³ と成人に対し比較的多く, また妊娠末期および分娩第一期婦人に比較して著明に多かつた。3日目は1日目に比し優位に減少した。血清コレステロール値はAV共成人に対し低く, 以後優位に増加する。アルカリフォスファターゼ値は15KA前後で以後も一定の変動はない。血清蛋白はAVで差なく以後も大きな変動は見られない。A/GはAV共に2.26で3日目に優位に低下した。AlはAV間に差はないが生後優位に減少して行く。glでは α_1 は変動しないが α_2 および β は生後1日目より3日目で優位に増加した。 γ -glはAV間に差なく, 1日目, 3日目で減少した。ビリルビンにAで1.75mg/dl, Vで, 1.58mg/dlであつたが推計学的に優位差は見られなかつた。勿論生後上昇した。

GOTはAVで多くは10~20単位, GPTはAVで0~10単位の間であり何れも生後変動は優位でなかつた。KはAVで3~4 mEq/l, Naは 120~145 mEq/l の間にあつた。PAS陽性淋巴球はAで 21.95%, Vで24.0%で生後1日目で減少, 3, 6日目で漸増した。骨髓中淋巴球様細胞の陽性率は末梢血に比し低く, 同様に逐的に増加した。

以上の結果に若干の考察を加えて発表した。細部については目下更に検討中である。

質問 (兵庫・神鋼) 中村 隆一

新生児血液は非常に溶血が多いと思われるがその処置についてどのように取扱われたか。

答弁 (済生会新潟総合) 笹川 重男

わたくしたちはヘマトクリット管で遠沈後の上清を肉眼的に判定し, 溶血のあるものはのぞいた。

なお溶血に関し, 現在赤血球抵抗をしらべているので追つて発表したい。

83. RH 陰性妊婦と羊水分析について

(大阪・淀川キリスト教)

○河辺 敬三, 王 春雄, 笠井 貞夫

田川 哲生, 合瀬 徹, 鶴原 常夫

荒木 正義, 上野 成子

昭和32年より本年10月迄にRH陰性産婦 182例を取り扱つたが, 抗D抗体上昇初産婦8例, 経産婦36例, 抗E抗体1例に, 抗体と児の予後につき検討を加えた。更にRH陰性28例に計60回の羊水穿刺を行ない比較検討した。そのうち14例は輸血, 重症黄疸等による脳性麻痺も